

# 路上表現：沖縄の「自立／自己決定権」の 樹立へ向かう営みと連帯する

昨年「3・11」以降、日本国家による私たちの「生」の侵害と「死の強制」が、かつてなく露わになっています。しかし、そのように私たちの「生」を踏みにして恥じない国家のあり方を、私たちはこれまで変革できないでいます。他方、暴力的な「生」の侵害にさらされることが「日常」であるような日本国家の沖縄への差別・抑圧的な支配を、私たちは「無関心」によって支え続けてきています。これらは、互いに対をなすことではないか。ヤマトの私たちは、今一度、そのことを自らに問わないわけにはいきません。

そうした私たちの「無関心」を通じた支配への加担を打ち破り、非暴力で普天間の辺野古移設を阻止しながら自らの手で地域の未来をたぐり寄せようとする沖縄の人たちと、ヤマトの私たちは改めてどのように出会いなおし、共にこの日本を組み立てなおすことに着手することができるのか。沖縄の「カッコ付き」の日本「復帰」から40年目の今、「自立／自己決定権」の樹立という新しい地平を拓こうとする沖縄の人々との連帯を求めて、私たちが富山の街頭で声を上げることの意味は、まさにそこにあります。

この間の沖縄での「自立／自己決定権」の樹立へ向かおうとする営みの中で、韓国の反基地闘争など、東アジア各地での民衆運動との連携・交流が進められています。それと共に、かつて琉球弧の海が異集団との自由な交通に開かれていた記憶を想起しながら、同じく米軍基地を抱えるグアムの先住民との共闘や、ハワイの先住民の文化・言語の回復運動との出会いを通じた沖縄の言語・文化の「再発見」が行われています。

そのような沖縄での動きに孕まれている東アジアや環太平洋の民衆運動と結びあうことへの模索に、私たち自身が学びながら、この列島上の諸地域の自立／自己決定を軸とする「群島」的接続を生み出すことによって、「自立／自己決定権」の樹立へと向かう沖縄での営みと連帯する。——そのことを通じて日本の組み立てなおしへ向けて歩み出すということが、この富山に生きる私たちにとっての大きな課題としてあります。

**2012年5月20日**

**「5・20路上表現：沖縄の『自立／自己決定権』の樹立へ向かう営みと連帯する」参加者一同**

●コール（案）

<Allの後をみんなでコール>

- ① 沖縄のことは、沖縄に！ All 沖縄のことは、沖縄に！
- ② <sup>じえいたい</sup>日本軍も米軍も、みんな消えろ！ All <sup>じえいたい</sup>日本軍も米軍も、みんな消えろ！
- ③ 基地は一つも残るな！ All 基地は一つも残るな！
- ④ 日米軍事同盟強化に All No! 沖縄の自立／自治に All Yes!
- ⑤ 沖縄を見捨てる／見殺すこの日本 もっとゆれろ もっとゆらすぞ！  
All もっとゆれろ もっとゆらすぞ！
- ⑥ 恥ずかしいぞ！ハトヤマ、カン、ノダ みんな消えろ！ All みんな消えろ！
- ⑦ 「自立／自己決定権」の樹立を求める沖縄の人々とともに All 沖縄の人々とともに  
日本の組み立て直しに踏み出そう。 All 踏み出そう。
- ⑧ 「平和的生存権」の樹立を求める沖縄とともに All 沖縄とともに  
日米軍事同盟の解体を進めよう。 All 解体を進めよう。

- 1 沖縄を、踏みつける／踏みにじる  
踏みつぶしていると なぜ言わないのか 私・たちは  
踏みつぶされる／踏みつぶす感度  
私・たちは 自分の位置に立つ
- 2 沖縄を、見つめる／見守る  
見殺していると なぜ言わないのか 私・たちは  
見殺される／見殺す感度  
私・たちは 自分の位置に立つ
- 3 沖縄のことは 沖縄が  
この日本のことは 私・たちが  
地域／地域のつながりへ この列島を解体する その未来へ
- 4 琉球・沖縄の島々と この列島の地域／地域が  
多重化するA<sup>エイ</sup>シアへ アジアへつながる  
その未来へ 私・たちは行く